

己偉いお前が誇り高きお前が、みんなの前で頭を下げられるのか。「私がすべての間違いの張本人でした」とそんな言葉がお前の口から出るのか。お前がすべてを狂わせてきた。お前はたくさんのものたちを、破滅の道へと引き込んでいった。「我に逆らうやつは殺してやる」とお前はみんなを脅してきたんだ。お前は頂点でなければ気がすまなかった。どんなことをしてでも己の欲するものをお前は自分の手に入れてきた。そのために何だっけ利用してきたではないか。我らのパワーも利用するだけ利用しやがった。汚い手を使いやがって、その価値がないと分かたらさっさと切り捨てていく。お前ほど冷たい心の持ち主はいない。お前は冷酷無比なやつだ。何の躊躇いもなく容赦もなく切り捨てられた。そんな輩がたくさんいるぞ。お前のかつての仲間もたくさんいる。がお前たちの繁栄がどれだけのものの犠牲のうえに成り立っていたか、お前はそのことを考えたことがあるのか。多くのものたちが嘆き悲しんできた。お前達の仲間じゃないか。それをそれを地獄の底に突き落としてお前達は自分達だけの幸せ、栄光を求め続けてきた。宇宙時代のことをもっともっとその心で思い出せ。思い出してくれ。すべてをさらけ出していってくれ。みんなが苦しんできた。地獄に落とされた方も落とした方も苦しみだった。今ようやくそのことが明かされようとしている。みんなが少しの勇気を出してお互いに気付いていこう、そう約束してお前達は今世肉を持った。我らは仲間だった。

ずっとずっと仲間だった。田池留吉が我らの前に肉を持ちそして我らに伝えてくれた。「ひとつですよ。みんな同じ、みんなみんな私のいとし子ですよ」とその両手を広げて受け止めてくれた。その温もりを伝えてくれた。信じていこう。どんなにお互い罵りあい責め合っても、もともとはお前達はひとつだったんだ。だからこうして今肉を持って出会えたんだ。苦しい思いをこの心から解放してそして喜びの道へと歩いていくために今世お前達は生まれてきたんだ。こんなに嬉しいことはない。こんなに幸せなものはいない。我らはそうやってお前たちに伝えている。だからだから心を開いてもっともっと思いを出して行ってほしい。それが許されている。それが受け入れられている。こんな場はどこを探してもない。田池留吉の肉があってアルバ - トの波動の中ですべてを受け入れてくれている、なんて幸せなんだ。あの場を大事にしてほしい。今こうしてお前に伝えている我らの存在を忘れないでくれ。